

# 目 次

56年度生 意識調査 .....	編 集 部 .....	1
新入生歓迎行事「西条研修ルポ」		
今日も元気だ56生!! 西条の巻 .....	編 集 部 .....	6
西条研修 PART I より深い交流を .....	高 田 かおる .....	7
西条研修 PART II 円盤の襲来 .....	山 田 順 二 .....	8
オリキャン.....今オリキャンに思うこと .....	石 川 明 徳 .....	9
＜シリーズ・学問のすすめ＞		
その14 衝撃波の研究と私の夢 .....	江 田 憲 彰 .....	9
＜シリーズ・学問のすすめ＞		
その15 社会人類学 .....	山 下 晋 司 .....	10
＜シリーズ・大学研究所めぐり＞		
その6 英国の新大学—イーストアングリア大学— .....	長谷川 正 之 .....	12
走馬看花.....中国旅行の印象 .....	北 村 浩 司 .....	13
自由投稿.....母の話 .....	中 谷 文 彦 .....	18
ソフトボール大会始末記.....人類学的球戯論序説 .....	畑 尾 武 海 .....	19
総合科学部同窓会発足 .....	中 洋 一 郎 .....	20
『飛翔』学生編集部移転先ルポ .....	雲 井 司 .....	21
学部の記録 .....		22
編集後記 .....		24

# 56 年度 生 意 識 調 査

編 集 部

今年も新入生対象のアンケートを行いました。多くの御回答、編集部一同謹んで御礼申し上げます。今回のアンケートは、56生が現時点で、総合科学をどのようにとらえているか、ということ、ひとつの大きな柱とし、その他、コース制度、総科の中で人間関係に何を期待しているかをサブテーマとして実施しました。メインとなる質問は「<Q 4-1> 総合科学とはどんな学問だと思っていましたか。また現在どう思っていますか?」です。さて総科56生の姿やいかに……? 以下のアンケート結果から読み取って下さい。

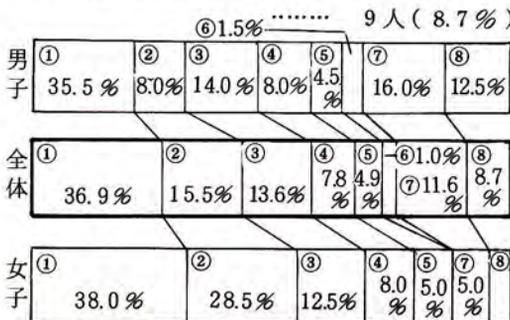
なお、アンケートは質問紙法により実施しました。

実施日 5月18日

103枚回収(男64、女39)

<Q 1> あなたが総科を受験した理由を下記の選択肢から、ひとつ選んで下さい。

1. 学際的・総合的な研究をしたいから。  
…………… 38人(36.9%)
2. コース決定に1年の猶予があるから。  
…………… 16人(15.5%)
3. 難易度(一次の得点、二次の科目 etc)  
…………… 14人(13.6%)
4. 自分の希望する進路に有利だから。  
…………… 8人(7.8%)
5. 広島市の街、広大に興味があったから。  
…………… 5人(4.9%)
6. 地理的に近いから。…………… 1人(1.0%)
7. その他 …………… 12人(11.6%)
8. 無効(複数回答・無回答)  
…………… 9人(8.7%)



男女を較べて、際立った差が出ている点は、女子に「コース決定に一年の猶予があるから。」という答を選択している人が多いことだ。また男子が「その他」の欄を選ぶ人がかなりいたが、女子は既成の選択肢を選ぶ傾向が見られた。

なお、その他の回答として次のようなものがあった。

- 私にはこの学部しかないという直感がひらめいた。
- 理系から文系へ転向が可能。
- 名前がいい。
- おもしろそう。

<Q 2> もし総科以外の学部を選ぶとしたら、どこですか? (選択肢方式)

- 文学部 …………… 31人(27.6%)
  - 理学部 …………… 31人(27.6%)
  - 教育学部 …………… 19人(17.0%)
  - 法学部 …………… 11人(9.8%)
  - 医・歯学部 …………… 7人(6.3%)
  - 工学部 …………… 6人(5.4%)
  - 経済学部 …………… 4人(3.6%)
  - その他 …………… 3人(2.7%)
    - ・人間科学部 …………… 1人(0.9%)
    - ・社会学部 …………… 2人(1.8%)
- 計 102人(複数回答を含む)

<Q 3> あなたは志望コースを決めていますか。またそれはどこですか?

- 未定 19人
  - 文系 11人
  - 理系 8人
- 決定 84人

地域文化コース	19人	文系19人 理系 0人	社会文化コース	15人	文系13人 理系 2人
情報行動科学コース	35人	文系 8人 理系27人	環境科学コース	15人	文系 3人 理系12人

※ただし文・理の別は入学時のそれである。

さて、ここで<Q 2>と<Q 3>とを関連させてみると、次の表ようになる。

総科以外の 学部を選ぶと	受験時 の文理	現在の志望コース				
		未定	地域	社会	情報	環境
文	文理	6 1	13	3	2	
法	文理	1		3 1	1 1	
経	文理	1		1 1		
教育	文理	2	4	1	3 5	1
理	文理	1 4			1 13	1 9
工	文理				4	1
医歯	文理	1	1		3	

全体的に見ると、各々の学部の要素の比較的多いコースを希望している人が多い。けれども受験時は文系で受けて情報を希望するもの8名、環境を希望するもの3名、また理系で受けて社会を希望するものが2名いたということは、総科らしさを表した数字であろうか。

また、5月の段階で志望コースを決めている人の多さは特徴的であろう。(昨年の55生対象のアンケートを見ても同様なことが言える。ちなみに昨年は89名)最初の一年間は「自分はどの分野、どのコースへ進めばよいか」という問いに答えるべく、多くの異った分野の学問にアタックする期間ととらえている人はむしろ少数派なのであろう。その原因としては、各コースの要望科目制度があると思われる。この要望により一年次の受講科目が決まってしまうようなコースもある。このことについて皆さんはどう思われますか。

<Q4> あなたは総科について、どんなイメージを持っていましたか。また現在どう思っていますか？

<Q4-1> 総合科学とはどんな学問だと思っていましたか。また現在どう思っていますか？

(記述式)

(入学前)

- わからない。……………29人(38.1%)
- 総合的な？学問なのは。……………19人(25.0%)
- いろいろな分野を研究する学問。……………15人(19.7%)

- 文理にまたがって研究を進める学問。……………5人(6.6%)
- ひとつの対象を色々な角度から掘り進めてゆく学問。……………4人(5.3%)
- そんな学問はありません。……………4人(5.3%)

(現在)

- 入学前とほとんどかわってはいない。しかし、次のような意見もあった。
- いろいろな分野を広く浅く勉強できるけれど、思ったほど分野が広がらない。
- 以外にコースによって制限が多い。
- いろいろな友達ができる学部。
- 結局いろいろなコースに分かれていて、思ったほどアカデミックでない。
- 要するに視点が定まらない学部。

<Q4-2> 学際領域とは何だと思っていましたか。また現在どう思っていますか？ (記述式)

(入学前)

- 学問間の境界。
- 今までの分野の間で研究の進んでいない領域。
- いろいろな学問を関連づけて勉強すること。
- ひとつの学問を深く学ぶ時に手を広げ得る限界。
- 従来の学問体系を新しくすること。
- ある史実を見るにも経済学的・法学的さまざまな角度から眺めるといったようなもの。

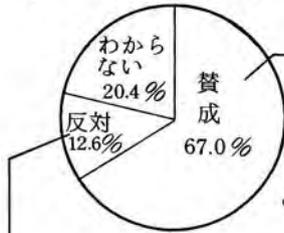
(現在)

- 各学問に対して総合的な見方をできる立場。
- 学問と学問の関連性を求めること。
- 色々な学問を関連づけて勉強することと同時に、それを足場にして自分の得意とする学問を勉強すること。
- 実際は領域というものは存在しないのだが、ひとりの学者が全てのことを知りつくすことはできないので、学者が自分の好きな分野に勝手に名前をつけ境界とし、自ら専門化と称した。
- 従来の学問体系を新しくすること。

質問が難しかったせいか、無回答あるいは「わからない」「言葉すら知らない」と答えた人が大半(63人、61.2%)であった。また回答してくれた人でも、質問自体抽象的・舌足らずなせいか、

質問と答えがかみあっていないものも多かった。

<Q 4-3> コース制度があることについて



- 4つのコースにとらわれないで、各人が各人のコースを創れるようにすべきだ。
- コースによって研究領域が分化されてしまうから。
- コースをやめ、文理両面で学べる教養学部的色彩がもっと濃ければよい。

- ある程度の指針がないと学びにくい。
- 苦手の科目を学ばなくて済む。
- 「総合的に」という考えに流されることなく自分に興味があり、また深く考えている領域をさらに広めてゆくことに意義がある。
- 原則的には賛成。しかし現在のコース制度は既成の学問のイメージにとらわれすぎている。(例えば、人文部門・社会部門といったぐあい。) もっとユニークなコース区別があってもよいのではないか。
- 学際的といっても単なる諸学の寄せ集めでは意味がない。一人一人のテーマにそった学際でなければならない。

コース制度の存在に賛成する人が大半であることは既に志望を、情報I群・地域英米などと決めて入ってくる人が多いことから見て当然のように思われる。

また、少々うがちすぎかもしれないが、この設問から、各人が大学でどう学ぼうとしているのか、どう学ぶべきだと考えているのか、といった事が推測できるだろう。たとえば、

- ① 専門を決め集中的に学ぶ
  - ② 広く学び、教養を高める
  - ③ おしつけられるのではなく自分で学ぶ
- その他色々あろう。しかし、これが正解、というものもありえないはずだ。

<Q 4-4> コース定員の問題についてはどう思いますか。

賛成	22人 (21.3%)	前問で賛成 〃 反対 〃 ?	19人 1人 2人
反対	69人 (67.0%)	〃 賛成 〃 反対 〃 ?	42人 10人 17人
わからない 無回答	12人 (11.7%)	〃 賛成 〃 反対 〃 ?	9人 2人 1人

(代表的賛成意見)

- 教官・教材の関係でしかたがない。
- 特定のコースに集中しすぎると困る。
- やはり成績で決めるべきだ。

(代表的反対意見)

- 自分の希望する所へ進んでこそ、この学部に入った価値がある。
- 入学試験の段階において選別をせず、しかも、各コースには定員が設けてあるというような中途半端なことはやめるべきだ。
- 私が希望コースへ入れないと困る。

コース定員の問題は、学生側と大学受け入れ体制とが大きく対立する点であろうし、また簡単に解決できる問題ではないだろう。特に学生側の意見として、コース制度それ自体には賛成だが、コースに定員が設けてあることには反対というものが42人と非常に多いということが特徴的と言えるだろう。

入学試験時にコース別に選別せよという意見があるが、それでは既成の学部学科とたいして変わらなくなるし、また一年間自分の進む道をしっかり見極めようとする人にとっては総科を選んだ意味がなくなるのではないだろうか。いずれにせよ、安易な解決は避け、今後とも慎重に取り組んでゆくべき問題であろう。

<Q 5-1> 総科56生のつながりについて

(強さについて)

大多数の人は強いと答えた。しかし学生研究室の内と外の差、部分的には強いがあとはバラバラ

と指摘する人も少なからずいた。

(重要性について)

ほぼ全員重要だと答えている。

(満足度)

意見の分かれたところである。だいたい満足派6割、不満派4割くらいである。

(今後の希望としては)

アンケートの回答に次のようなものがあった。  
○研究室に最初の頃は行っていたが次第に入りづらくなって足が遠のいている。いろんな人があるんだから、自分達でかたまらないでほしい。研究室人間と研究室外人間がそろそろでき始めたようだ。

一方、かなりの人が「みんなの名前を覚えたい」「もっと全員とつながりをもちたい」という意見を出してくれている。具体的対策としては、「何かとときどきテーマを決めてディスカッションをしたい」「行事をもっと増やそう」などの意見があった。ほぼ全員がつながりを重要としていることより、今後の課題となるだろう。ただここで次のような意見もあった。

- 連帯も重要であるが、それが同一化を強制するものであってはならない。
- 未来は明るい。

#### < Q 5 - 2 > 総科の先輩・後輩のつながりについて

(強さについて)

大半の人が強い、あるいはそういった意味の回答をしている(弱いと答えた人の3倍もの数だった)

具体的な意見としては

- 他学部と比べ、クラブの上下関係でもないのに大変強いと思う。
- 新歓コンパを見る限り遊ぶつながりは強いと思う。
- オリキャンなどに行った人はそのフェローらに対して強いが、それはごく一部にすぎない。
- (小人数の学科と比べると)幾分弱い

(重要性について)

ほぼ全員重要もしくは何らかの点でその意義を認めている。具体的な意見としては

- いろいろな面で教わることもある。
- 単位とかその他もろもろを含めて必要。
- このつながりがなければ味気ない。

(満足度)

満足派・不満派はほぼ同数であった。

- これほど面白い先輩が多いとは思わなかった。
- もっと親睦を深められたらずっと良い。
- 世代のひずみ大きい。
- (つながりを求めてないから)満足でも不満でもない。
- オリキャンに行っていないから親しい先輩がいないので不満。

(今後の希望としては)

- 十人十色、さまざまな意見があって分類できない程である。各人の意見を並べると
- ゆっくり話しあえる機会がほしい。
- もっと多くの先輩とつきあえる機会が、たくさんほしい。
- いかにしてたやすく単位をとるかと教えてくれるのではなく、おもしろい授業・生き方にプラスになる授業を教えてほしい。
- 総科のイメージは分かりにくいので、先輩の経験を知りたい。
- コンパの回数をふやして下さい。
- 先輩達もあき時間はできるだけ研究室にきてほしい。
- 一部の目立つ先輩としか知り合いになれない。
- 広く浅くだけにおわりたくない。
- あまりにも表面的で派手すぎる。内面的なつながりを希望する。
- 総科同士で固まる傾向があり、他学部とのつながりが少ない。

#### < Q 5 - 3 > 総科の学生と教官のつながりについて

(強さについて)

強い派4割、弱い派6割といったところ

- 弱いと思ったが、西条研修では強かった。
- 一般教育の大人数講義ではつながりは弱い
- 時期的には割と強い

(重要性について)

ほぼ全員重要だと答えている

- 世代を越えた意見交換をするには重要
- 学問的にも人間的にも教授から影響を受けるのは良いと思う。
- 専門にはいるにつれてつながりは生れてくるし、また、つながりがなければ専門教育はできないと思う。

(満足度)

不満足派が8割を占めている。

(今後の希望としては)

希望なし、わからないも少なからずいた

- 教官自身が総科のイメージをはっきりもって指導してほしい。
- もっと知り合う機会がほしい。
- もっと気軽に教官室に入らせて下さい。
- 教授もソフトボール大会などに参加してほしい。
- お酒をおごってもらいたい。
- 行事をふやしたらよい。

### <Q6> 学生研究室について

1 ○ あなたは学生研究室に普段出入りしていますか。

出入りしている 65%	出入りしていない 35%
----------------	-----------------

2 ○ あなたにとって学生研究室は、はいりやすいですか、はいりにくいですか。

入りやすい 53%	入りにくい 47%
--------------	--------------

3 ○ 週に何日ぐらい学生研究室へゆきますか

ほとんど毎日 41%	週に3-4日 28%	ほとんど行かない 31%
---------------	---------------	-----------------

4 ○ 学生研究室の存在は有益でしょうか。無益でしょうか。

有益 91%	無益 9%
-----------	----------

ここで<Q6>全体をながめてみると、次のような点が特徴的である。

- 1 ○ 当然のことだが、普段出入りしている人は入りやすく感じ、有益だと考えている。
- 2 ○ 反対に、普段出入りしていない人は入りにくく感じている。もっともこれは、入りにくいから普段出入りしない、と考えるべきだろうか。
- 3 ○ しかし、普段出入りしてなく、入りにくいと感じている人でも、有益性は認めている。(普段出入りしてなく、入りにくいと感じている人21名中無益だと答えたのは4名)

<6-2>

(入りやすい理由)

- 友情があふれているから。
- 知った顔がいるから。
- 雰囲気明るい。
- 元気だから。
- ロッカーがあるから。

(入りにくい理由)

- 知らない人ばかり。
- 個々のグループにはいりにくい。
- 特定の友人がいないと会話に困る。
- (照明・雰囲気)が暗い。
- 閉鎖的な世界だから。
- 研究室にいる人の人相が悪い。
- タバコのけむりが嫌いだから。

<6-4>

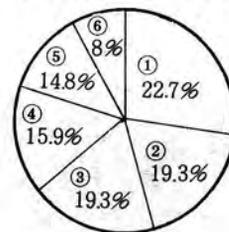
(有益の理由)

- 総科生の連帯を生む。
- 友だちができる。
- 文系の人とも理系の人とも接触でき、勉強になる。
- 連絡をとる場所になる。
- ヒマつぶしにもってこい。

(無益の理由)

- 常連なら楽しいだろうけど、そうでないところだから。
- 設備がボロい。
- 陰気、健康に悪い。
- 服がよごれる。

<Q7> 高校時代に、大学へはいったらまず何をやるかと考えていましたか。



- ① 趣味、スポーツ、娯楽
- ② 勉強
- ③ サークル活動
- ④ 友人や異性との交際
- ⑤ 課外の読書や勉強
- ⑥ その他

<Q8> 今一番関心のあることは何ですか。

- サークル活動
- アルバイト
- 友人
- 人間関係
- 異性
- 大学生活
- 料理
- 容易に単位を取る方法
- 希望コースに入れるかどうか
- 遊び
- 人間の生き方
- 社会情勢
- 自分の